

# Economic Indicators

発表日：2023年8月7日(月)

## 景気動向指数(2023年6月)

～基調判断は「改善」維持も、先行きには不透明感～

第一生命経済研究所

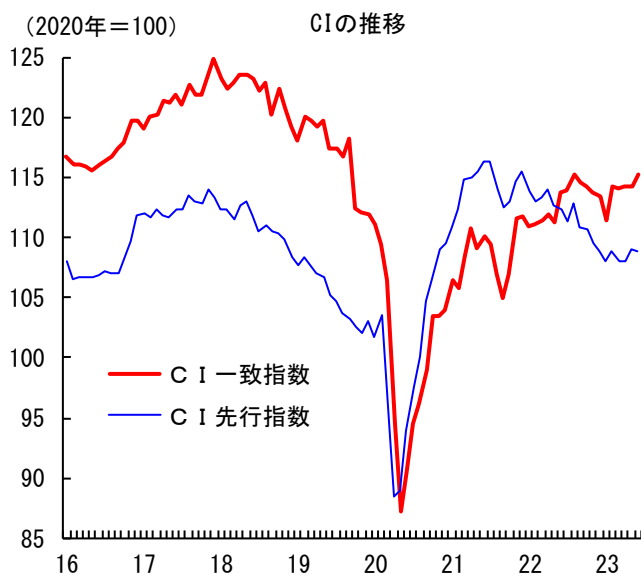
シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

### 自動車生産の回復が牽引役に

内閣府から公表された2023年6月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.9ポイントとなった。内訳では、卸売業販売額などがマイナス寄与となる一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、輸出数量指数など、輸出、生産関連系列が押し上げ要因となっている。

足元では供給制約の緩和に伴って国内での自動車販売や海外への自動車輸出が好調に推移している。自動車以外については輸出、生産とも低調な推移が続いているが、自動車の牽引によってC Iは悪化を免れている格好である。



(出所)内閣府「景気動向指数」

### 基調判断は「改善」維持も、先行きには不透明感

6月のC I一致指数の基調判断は、3ヶ月連続で「改善」となった。

もっとも、「改善」判断継続とはいえ、3ヶ月後方移動平均前月差が+0.37、7ヶ月後方移動平均前月差が+0.20と、プラス幅はそれぞれ小幅なものにとどまっており、回復感には欠ける。また、生産予測指数の経済産業省試算値が7月に前月比▲2.7%となるなど、7月のC I一致指数は低下の可能性が高く、今月の上昇分は打ち消されそうだ。均してみればC I一致指数は一進一退の推移から脱してはいないと判断すべきだろう。

先行きについても楽観できない。C Iと関係が深い製造業部門の動向を展望すると、供給制約の緩和による挽回生産で自動車生産は好調に推移する可能性が高い一方、海外経済の減速に伴う輸出の下振れが足を引っ張ることが予想され、全体としてみれば当面回復感に欠ける動きが続く可能性が高い。C I一致指数の基調判断は当面「改善」が継続するとみられるが、輸出動向次第では秋以降に再び「足踏み」に下方修正される可能性もあるだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

